

桜蔭俳話会 四月句会(第三七四回)

平成三十一年四月二十八日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

【推薦句】

山笑ふ休耕田の発電板

ヤエ子

【添削案】

山笑ふ休耕田の発電盤

【添削案】

切り岸へ出でてしまひし花遍路

【原句】

大き口開けるが勝ちの燕の巢

友子

【添削案】

大き口開けるが勝ちよ燕の巢

【原句】

ランチには熱いほうとう春惜しむ 直子

【添削案】

ランチまで待ちしほうとう春惜しむ

【原句】

選挙公約読み直したり万愚節

友子

【添削案】

読み返す選挙公約万愚節

【原句】

若葉して玻璃開け放つ百畳敷

才美

【添削案】

若葉へと玻璃戸開けたる百畳間

【原句】

情報の流れて闇へ花の冷え

明美

【添削案】

花冷の情報闇へ流れけり

【原句】

晩年の不安やはらぐ初音かな 明美

【添削案】

晩年の不安のかすか初音かな

【原句】

少年の黙は雄弁青嵐

才美

【添削案】

少年の黙は雄弁春疾風

【原句】

真似難き父母の生き方朧月

友子

【添削案】

真似難きちちははなりし朧月

【原句】

両足に我身を託しつくしんぼ

幸

【添削案】

両足に託す一身つくしんぼ

【原句】

携帯で潮見検索潮干狩

ヤエ子

【原句】

鶯や雨上がりたる切通し

友子

【添削案】

鶯や雨の上がりし切通し

【原句】

クルーズ船ずずいと着岸夏隣

才美

【原句】

品書きの裏は真つ白花の茶屋

幸

【添削案】

品書きの裏の真つ白花の茶屋

【原句】

霞みたる相模の海や一夜城

友子

【原句】

切り岸へ出てしまゐたる花遍路

才美

【添削案】

霞みたる海にうかびし一夜城

【原句】
コンビニも厠も薨菜花道
ヤエ子

【添削案】
コンビニの厠の薨菜花道

夕暮や轢かれて無惨白樺
【添削案】
夕暮の車道にひとつ白樺
ヤエ子

【原句】
花見する行き交ふ人の道狭し
眞壽

【添削案】

花人の溢れてゐたり道狭し

【原句】
老の兄外食行けず桜かな
直子

【添削案】
久方の兄の外食桜かな

【原句】
春の来て寒さは少し若返り
邦子

【添削案】

春寒や君さは少しく若返り

【原句】
女の子のしゃぼん玉丘から海へ
友子

【添削案】
しゃぼん玉丘から海へ流れけり

【原句】
目借時通勤途中に草茂る
直子

【添削案】

通勤の途中にありぬ目借時

【原句】
三極や心寄せ合う二人の眼
眞壽

【添削案】
三極やこころ一つに二人の眼

【原句】
うなだれし君は連れ子か春半ば
眞壽

【添削案】

うつ向きし君は連れ子か春闌くる

【原句】
笹鳴きの幼き声や屋敷神
幸

【添削案】
笹鳴きの導くやうに屋敷神

【原句】
知る人の次きつぎ逝きて春淋し
邦子

【添削案】

知る人の次々逝し春の雨

【原句】
主人留守庭には春の花咲かせ
邦子

【添削案】
留守勝ちの主の庭や露の臺

【原句】
蓄電池車の隅に消火器花の冷え
明美

【添削案】

電池車の隅の消火器春寒し

【原句】
忘らるる水かけ不動花の寺
友子

【添削案】
忘れしは水かけ不動花の寺

【原句】
分封の蜜蜂銀座おののけり
友子

【添削案】

分封の蜜蜂銀座ど真ん中

【原句】
秘そやかに元気で長寿祈る春
眞壽

【添削案】
祈りしは「元気で長寿」春一番

【原句】

【原句】
訪ふ人稀なる寺に呼子鳥
邦子

【添削案】

訪ふ人の稀なる寺や匂鳥

【原句】

ひとり通う決意ようやく入園児

友子

【添削案】

ひとりゆく決意ようやく入園児

【原句】

陵の落花深しや人疎ら

ヤエ子

【添削案】

陵の落花の深し音もなし

【原句】

満開の花に浮かれる屋台店

眞壽

【添削案】

満開の桜に浮かれ屋台かな

(文責 代表 増田守)

(欠席投句 古野明美、京林眞壽、平野邦子)